

みき渡り守り流さすの箱一入に納むる(都合百箱)一
めの亥の日は献く又申の亥の日は右同形又亥の日は
元八十箱都合三度例年十月亥の日は亥の別は是を献
き門を更枝別の家四軒有り順番は是を納む一箱二
の積を以 朝庭より白銀をとりて多ふ未代亥の子孫
云い是をすくは家より神名といふなり大なるを二尋長
み尺の丸き石也神石と号し古来より祭り申す雷火
の難る一一とゆなり

圓光大師名号の所属の状の事

^(天) 豊嶋郡依尾村一久女寺といふ諸人よく知る處の
霊場之宝物付おふ河けく算へる一其中圓光大
師の字の名号は係へく熊谷入る蓮生より遠く小状河リ
俗の解し女く一一といふ有難きもの人より有定は出
して法人よふ一一ひるあり

其方後生一大事といふ名有信名号也疑ひいふは
一因果する一一飯よまて平常と不知電光石の
火ありておふまは思ふ縁の月此諸事一月の前は残
といふ名事と長思ふ人共何事と南無河
弥陀佛

九月十二日

蓮生

源空 互判

鳩池酒の事

河辺郡鳩池村に造れぬ酒香味甚佳事他に勝り依
し酒と高小家と名を貸りて賣也世俗山中酒屋と
唱ふ今大坂の富家鳩池某の先祖より出で今屋号
ハ鳩池苗氏ハ山中と称も事能人の知る所なれ是も
山中酒屋の事一思ひ合す一及よ一説有り性昔々
今この記法くすみし酒を何れも皆濁酒なり今

とは異なる事之有対鳩池山中酒屋よなきハハ男
根生りし者も主人と何角口論も一事有ても
や武家よ奉とせしと思ひ何れも腹いしと人
リと見廻も袖と裏口よ灰桶の有し紙見つけ家内の
見ざる所よ土蔵へ持入り桶の灰紙酒桶をけり込め
よ獨り知りし者も一とぬれよ之及も紙を主人
先家同のこの紙事とも紙を右の酒桶の酒を
汲出さんと柄しやくも汲りけ見るとははいん
まのふ迷も酒忽ち清くすみし酒も不思後之
と是と一口吞て見ると香味も又玉直成るいふ成事や